

歯科技工原価計算

主な目的

- ◇歯科技工の適正報酬を決定するための基礎となる資料
- ◇歯科技工士給与算定の基礎資料
- ◇公的機関及び諸団体に対し歯科技工に要する諸費用説明の基礎資料とする

原価要素の種類

直接材料費

製品との関係が直接的に把握できる材料費、消耗器具費

直接労務費

事業主報酬、従業員賃金

直接経費

製品との関係が直接的に把握できる器械の減価償却費

組間接費

間接材料費、間接労務費、間接経費

歯科技工単位原価

	製作所要 時間(分)	直接労務費 (円)	直接材料費 (円)	直接経費 (円)	組間接費 (円)	単位原価 (円)
総義歯	208	7,022	643	157	10,516	18,338
局部義歯5~8歯	186	6,320	620	141	9,465	16,546
鑄造鉤(コバルト,ニッケルクロム)	37	1,317	293	166	1,972	3,748
線鉤両翼レスト付	27	958	170	5	1,434	2,567
鑄造バー(コバルト,ニッケルクロム)	51	1,806	788	219	2,704	5,517
屈曲バー	27	958	77	—	1,434	2,469
複雑インレー	66	2,340	672	28	3,505	6,545
全部鑄造冠	83	2,873	767	35	4,302	7,977
硬質レジン前装鑄造冠	132	4,514	2,634	171	6,761	14,080
金属焼付ポーセレン冠	184	6,320	3,175	1,596	9,465	20,556

※硬質レジン前装鑄造冠の直接材料費は歯冠用硬質レジン材料費571円を含む。

現在、我が国の歯科技工の多くは健康保険経済下にありながら健康保険制度保障下にありません。したがって客観性、自発性を主体的に意識しづらいままに、自由経済下の判断・責任が求められてきた現実があります。

この現実に対し一定の社会規範をかけることに成功しても、まして社会統制が不備なあいだ、“原価意識”は歯科技工士にとって必要不可欠です。

なぜなら、[(個別個々環境下での)原価を下回っての量産]は「たくさん作れば作るほど経営が悪くなる」という“悪循環”におちいることが必然だからです。

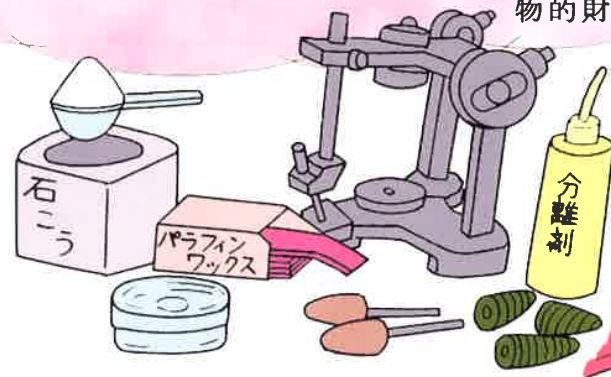
悪循環からの脱却のために、まずは『原価のなかみ』を意識しましょう。

作 成 : 社団法人 日本歯科技工士会 技工業対策部(自営)、調査企画部
 イラスト協力 : 上野昇平氏
 発 行 : 2000年10月

みんな少しづつかかっている 原価のなかみ

直接材料費

直接的に認識できる
物的財貨



『作成』には「こうやろう!」という
考えがある。その考えを形作る材料、
作っていく労務などが直接費。付帯
労務やささまざまな備品、ランニングコスト
や租税公課などが間接費。

「ひとつの技工」には、みんな少しづ
つかかっているのよネ。

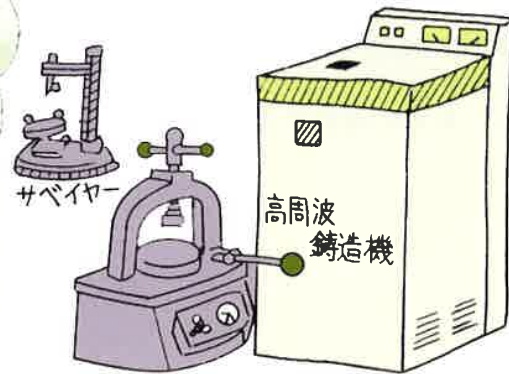
直接労務費

それを形にしている労務



直接経費

それを
作る時にだけ使う
機械の償却費



間接材料費

共通して発生する材料・消耗品費

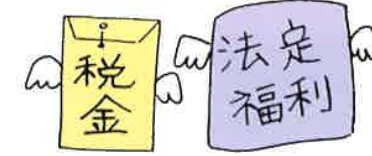
補助材料費
消耗器具費
消耗備品費
事務用消耗品費



水道光熱



賃借料



労災保険
雇用保険
健康保険
年金

間接経費

共通に発生する経費



間接労務費

技工の付帯労務

